

辻野 隆三 Tsujino,Ryuso

生 年 月 日 : 1969年2月24日
出 身 地 : 東京都
出 身 校 : 堀越高校
所 属 : 北日本物産株式会社
身長・体重 : 176.0cm 76.0kg
PLAY - STYLE : フォア・バックともに右利き片手打ち
サーブアンドボレースタイル
プ ロ 転 向 : 1988年7月

プロフィール

テニスを始めたのは9才のとき、テレビでテニス中継を観ていたのがきっかけ。当時の花形プレーヤーのピョン・ボルグの影響を大いに受ける。

ジュニア時代は、ほとんどのタイトルを手中に収めた。中でも全日本ジュニアを3年連続制した記録は前人未到の快挙である。(1年目の決勝戦の相手は松岡修造。)高校3年のときには、高校総体で堀越高校初優勝の原動力となり、自らも個人優勝を果たした。

卒業後、渡米。ATP世界ランキング4位まで上がった実績を持つピタス・ゲルライティスの教えを1年半受け、その後はピート・サンブラス、リンツィー・ダベンポートのコーチでもあったロバート・ランズドープにつき、マイケル・ジョイス、ジェフ・タランゴらとともに2年半の修行を積み帰国。'90年5月に帰国第一戦となったロイヤルSCオープンでベスト4、続く群馬オープン、八ヶ岳オープンで優勝し一世を風靡した。

同年10月のセイコースーパーテニスでは、大会推薦を手に入れ出場。一回戦、ジョイ・リーベ選手(当時ATP世界ランキング98位)をフルセットの末下し、二回戦では、第二シードのボリス・ベッカー選手(当時ATP世界ランキング2位)から数々のサービスエースを奪い大熱戦を繰り広げた。結果は4-6・6-7で敗れはしたものの、ベッカー選手がノーマークだった、この日本人選手から強烈な印象を受けたことは言うまでもない。

'90年12月、香港チャレンジャーの試合中に、コート上で転倒し右肩を脱臼。6ヶ月の療養の後、'91年6月の韓国サーキットで復帰する。同年12月、最終戦となったクリスマス・オープンではシングルス・ダブルスで準優勝を収め、完全に復調したことを見せつけた。

'92年全日本室内テニス選手権でダブルス優勝、全日本テニス選手権では決勝戦で死闘の末惜敗したが、その後のジャパンサーキット・マスターズ大会で優勝し、世界ランキ

ングを大きく伸ばした。12月のクリスマス・オープンではシングルス・ダブルスを制覇し、日本のトッププロである事を証明した。同大会では94年、96年にも優勝している。

‘93年のセイコースーパーテニスにおいては、日本人で初めて予選を勝ち抜き、本戦でもパトリック・クーネン選手を破り二回戦に進出。また‘94年オーストラリアオープンにおいても、松岡修造以来となる予選を勝ち抜いての本戦出場を果たしている。この二大会での実績は松岡修造と辻野隆三しか成し遂げていない。

14才のときナショナルチームの一員に選ばれ、19才でデ杯チーム入り。また‘94年広島アジア大会ではチームリーダーとしてチームをひっぱり、銀・銅と二つのメダル獲得した。

‘96年には全日本ローン選手権でシングルス・ダブルスに優勝。‘97年からは実業団リーグチームのひとつ、北日本物産に選手兼監督として迎え入れられ現在に至る。また‘98年全日本選手権ではダブルスに優勝している。

攻撃的かつ積極的なプレーは日本人離れしたセンスとあいまって、海外のプレーヤーからは高い評価を受けている。

語学堪能であり、海外のプレーヤーとの交流関係も広く、テニス界の情報通としても知られている。

現在、MIRAIテニスアカデミーの代表として活躍中。